

出口に向けた水産総合研究 ―豊後水道域のタチウオひきなわ漁業を例として―

共 催：水産海洋学会，沿岸域における漁船漁業ビジネスモデル研究会

日 時：2014年11月17日（月） 10：00～17：30

場 所：水産総合研究センター中央水産研究所 講堂（横浜市金沢区福浦2-12-4）

コンビナー：廣瀬太郎（水研セ開発セ），牧野光琢（水研セ中央水研），亘 真吾（水研セ中央水研），
小田憲太郎（水研セ開発セ），堀川博史（水研セ開発セ）

挨拶：和田時夫（水産海洋学会長），武井 篤（水研セ本部） 10：00～10：10

趣旨説明：牧野光琢（水研セ中央水研） 10：10～10：15

セッション1 漁業とプロジェクトの概要 座長：小河道生（水研セ開発セ）

1. 沿岸域における漁船漁業のビジネスモデルと研究会 山下秀幸（水研セ開発セ） 10：15～10：30

2. 国内外の漁業動向とひきなわ漁業の位置づけ 櫻井正輝（水研セ開発セ） 10：30～10：45

3. 臼杵プロジェクトの概要 堀川博史（水研セ開発セ） 10：45～11：00

セッション2 生物と資源 座長：廣瀬太郎（水研セ開発セ）

4. 豊後水道域における生物特性 徳光俊二（大分水研） 11：00～11：20

5. 資源解析 亘 真吾（水研セ中央水研） 11：20～11：40

6. 計量魚探による現存量調査 宮下和士（北大フィールド科セ） 11：40～12：00

―休 憩― 12：00～13：00

セッション3 ひきなわ漁業 座長：徳光俊二（大分水研）

7. タチウオひきなわ漁業の特性 黒坂浩平（水研セ開発セ） 13：00～13：20

8. 操業効率化に向けた新技術 小河道生（水研セ開発セ） 13：20～13：40

9. 新技術を利用した操業戦略 廣瀬太郎（水研セ開発セ） 13：40～14：00

セッション4 流通と消費 座長：牧野光琢（水研セ中央水研）

10. 流通実態と流通戦略 小田憲太郎（水研セ開発セ） 14：00～14：20

11. タチウオ購入者の購買行動と心理 國枝俊弘（シタシオンジャパン） 14：20～14：40

セッション5 タチウオを取りまく地域・社会 座長：小田憲太郎（水研セ開発セ）

12. 漁業・漁村における女性の役割―臼杵タチウオ漁を事例として―
関いずみ（東海大海洋） 14：40～15：00

13. 高校生によるタチウオを活用した魚食普及活動と商品開発
三重野成人（津久見高海洋科学学校） 15：00～15：20

―休 憩― 15：20～15：30

セッション6 出口としてのビジネスモデル 座長：堀川博史（水研セ開発セ）

14. ビジネスモデルの定着に向けて 岩尾敦志（沿岸Biz研・京都海洋セ） 15：30～15：50

15. 経営の継続性の分析 武井 篤（水研セ本部） 15：50～16：10

16. 水産総合研究としての出口 牧野光琢（水研セ中央水研） 16：10～16：30

総合討論 座 長：堀川博史（水研セ開発セ） 16：30～17：25

挨拶・閉会：福田安男（水研セ開発セ） 17：25～17：30

開催趣旨：（独）水産総合研究センターは、「我が国の沿岸域における漁船漁業の新たなビジネスモデルの構築と定着を目的と定め、その成果を全国に普及させることで、我が国の沿岸域における漁船漁業の再生と地域の活性化に貢献すること」を趣旨として、「沿岸域における漁船漁業ビジネスモデル研究会」を設立した。研究会では、ビジネスモデル構築の第1弾として、西日本で広く行われているタチウオひきなわ漁業を取り上げた。この取り組みは2013年度に終了したが、これまでに多くの機関が参画し、それぞれ一定以上の成果を上げたと考える。本シンポジウムでは、個々の成果を報告するとともに、成果を統合したビジネスモデルを提示し、さらに残された課題等について検討する。